カナダ人の発明発見(VIII)

●無線通信

グリエルモ・マルコーニは、一九〇一年の十二月十二日、ニューファンドランド州セント・ジョンズのある丘の上に立って、世界最初の大西洋間無線通信を受信した。その日は木曜日であった。

翌週の月曜日になって、電信局の株価が落ち込みだした。その晩、ニューファンドランドに出入りする通信を独占していたアングロ・アメリカン電報会社は、彼をこの島から〝追放〟した。

マルコーニを救援したのがカナダ政府。政府は彼に八万ドルを提供し、無線施設をノバ・スコシア州ケープ・ブレトン島のグレース湾に移動させた。これによって、カナダと英国間の無線通信が可能となった。

マルコーニはカナダ人ではなかった。したがって無線はカナダ人の発明ではないが、この革命的な発明にカナダもいくらか寄与したとは言えるだろう。

最初の音声通信

マルコーニが〝トン・ツー〟の信号を受信しようとしていた頃、カナダ人のレジナルド・A・フェッセンデンは無線による音声放送に成功しつつあった。

マルコーニなど当時の人々は、無線による通信は電気のスパークによってパチパチという音が起こる〝ムチ打ち〟効果によるものだと考えていた。しかしフェッセンデンはこの理論には真っ向から反対していた。無線電波は水に浮かぶ波紋みたいなもので、輪がだんだん広がっていき、ついには受信アンテナを取り囲むようになる、と彼は考えたのである。こうした波紋こそ電波を搬送するもので、音声の伝達はこれによって可能になる、と彼は主張した。

一九〇〇年十二月二十三日。彼の努力は実を結び、彼の理論は実証された。世界初の無線による音声通信に成功したのである。そして一九〇六年のクリスマス・イブの日、フェッセンデンは米マサチューセッツ州ブラント・ロックにある通信所から、カリブ海にいる何隻かのユナイテッド果実会社の船に向けて、世界最初のラジオ放送を行なった。フェッセンデンは短かくあいさつしたあと、ヘンデルの作品「ラルゴ」のレコードをかけ、それからバイオリンで「オー・ホーリー・ナイト」を弾いてきかせた——これが放送の内容だった。

●スプリング・スケート

アイス・スケートは、すでに一〇一五年頃の英国で人々が楽しんでいたという。当時は動物の骨を靴の底にゆわえつけてすべっていたらしい。カナダでは、伝説によると、イロクォイ族インディアンが動物のすね骨で滑走部（今日のブレードに当る）を作り、それを革ひもではきものに結びつけてすべったという。

骨製のブレードはやがて骨に鉄わくをつけたものになり、完全な金属製のブレードにかわった。これをブーツのかかとにねじで止めるか、靴底に留め具でとめて革ひもで結んだ。

ところがこれではいかにも面倒くさい。そこでジョン・フォーブスというノバ・スコシアの青年が思いついたのは、革ひもや留め具のいらないスプリング・スケート。リンクが作られ、今日のアイスホッケーが発展したのは、このスケートの発明に負うところが大きい。

これはブレードの上端に鉄製のカギをつけ、スケートをわずか一分以内でブーツに装着できるようにしたもので、しかもバネをブレードに止めているネジによってどんな長さのスケートでも靴に合わせて調整することができるという利点があった。

フォーブスが一八六八年に作り始めたこのスケートは見事に当った。このスケートは「Forbes Acme, Starr Manufacturing Company, Dartmouth, Nova Scotia」の刻印が押され、世界一のスケートとして知られていた。

編集後記

○一九八〇年代も早や二年目。今年はオタワで経済サミットが開かれるほか、憲法問題がカナダ国内の的焦点となるでしょう。いろいろな分野で連邦政府と州政府の役割や権限が新しく規定されるため、個々の修正条項に対してはそれぞれの利益や思惑がからんで抵抗も大きいようですが、できるだけ早く、すっきりした形で決着をつけて欲しいものです。憲法のカナダ移管と改正によって、カナダの飛躍が期待されます。

○今号はカナダの人物をとり上げました。日本ではいずれもあまりなじみがうすいかもしれません。カナダにもこうした多彩な人物がいる（当然ですが）ことを知り、カナダにより親しみをもっていただければありがたいと思います。

○今年はカナダの連邦・州関係や教育事情などをとり上げていく考えです。変わらぬご愛読とご協力をお願いします。

（吉田）

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を反映するものではありません。また公式文書の翻訳は仮訳です。転載の際は、できるだけ出典を明らかにして下さい。ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。
〒107 東京都港区赤坂七丁目三一三八
カナダ大使館広報部